

九州支部

日本-山岳会東九州支部



新しい年の新しい会報		1
南米ベルー・エクアドルの山		2
石堂山から樋口山へ		5
霧島山縦走		5
小表山・柏山へ		6
屋久島紀行		7
夏休み利用の山行		8
支部臨時総会を開催		9
祖母山紀行		9
池代に憩う		9
二月月例山行のお知らせ	1	()
九州四支部の集い		0
後記		0

と自負しても良さそうです。

になりますし、それだけの力がついてきた が出来て、全国の仲間入りを果たしたこと が号を重ね、たいへん充実しています。 既に日本山岳会の全国各支部では、会

九州支部も、

会報の発行にこぎつけること

限りです。

平成9年1月26日(日)

て進んでいるかと言えば、そうは言えませればならない問題も日増しに増えている に対応できないように、登山界が対処しなに対応できないように、従来の自然保護活動のに対応できないと言えば、そうは言えませ すかし、 登山り世界 ついていると同時に、価値1-1-1系月を科索していると同時に、価値 新しい秩序を模索していると同時に、価値向の渦中にあります。いわば、その中で、同時にコンピュータなどによる情報通信革 ションが流行語になっているようですし、地球一体化と言いますか、グローバリゼー文化も、混沌の中にあるようです。世界は それに応じてトップクラスによる尖鋭的な、 意欲的な登山活動も盛んになっています。 で、ある意味では登山会の裾野は広がり、いると思えます。中高年登山者の増加など 登山の世界もまた、それと帆を一にして ところで、現在は政治も経済も、 登山界が一つの方向に一 体となっ 社会も

すことができるようになったのも、嬉しいめの助走を今年から始めなければなりませ大分にお招きする年でもあります。そのた大分にお招きする年でもあります。そのた 年は東九州支部にとって創立四○周年の 念すべき年であり、 と三年ですが、一 支部長 本山岳会東九州支部 全国プロック懇談会を 十世紀段 水 後の11000

世紀まで

秀 idi.

しい 年の新しい会報

新

部の強みでありましょう。 がJACの旗のもとに結集して さまざまです。そうした人たち 沢山います。考え方や登り方も 会や県段階の組織に所属し、 以外にも、大分県内の単位山岳 は極めて多彩です。日本山岳会 いることが、そのまま東九州支 ダーとして活躍している人が 幸い、東九州支部のメンバー

要になってきます。新しい支部 ことを期待したいと思います。 ずれは、ヒマラヤなどで花開く り強力なものとし、盛り立てて することでまとまり、支部をよ 精神的な土壌となっていると思 なくとも支部に属する人たちの 録や連絡にとどまらず、この支 切です。会員の皆さん、登山記 れを受け入れる支部の姿勢が大 考え方や登り方は多様でも、そ くれるものだと信じています。 会報は、そのため十分役立って 行動のための情報交換の場が必 の意思疎通と言いますか、共同 いくことは重要です。それがい 人の意志がJACの良さを認識 っても良さそうです。ただ、各 山活動は当面できなくても、少 そのためには、支部会員相互 例え支部独自のパワーある登 報に多様な原稿をどしどし寄



クアドルの山行

貞

町である。 ランの登山基地は人口八万人の HIMBORASO 6310m) に登山した。ワ ンドウサであるように、ワスカ スカランは登頂出来なかったが デスの秀峰コトパクシ(COTOPAXI 最高峰でもあるワスカラン (HASC 高峰でもありペルーアンデスの でおよそ 八時間、標高3050mの ルーの首都リマから北に417㎞車 ワラスである。ワラスは南米ペ 無事単独登頂することが出来た。 コトパクシとチンボラッソには ARAN 6768m)と、エクアドルアン 5897m)と最高峰チンボラッソ(C アコンカグアの登山基地がメ アンデスのブランカ山群の最 一九九五年八月~九月にペル

られた名称である。 チャピンの遺跡にちなんでつけ 付近にチャピン文化が発生し、 ャピンデワルタン作戦は、ここ なみに今回ペルー人質事件のチ インカ文化の基礎となった。ち 今から約 3000年前このワラス

連なる全長 8000㎞からなる長大 南はチリまで七ッの国にまたが な山脈で、北はベネズエラから の最高峰である。アンデス山脈 と北峰 (6655粒) の二峰からな は南米大陸の太平洋岸に南北に る休火山である。ルーアンデス ワスカランは南峰 (6768年)

> スを呼んでいる。 って、それぞれの国別にアンデ

2年ドイツ、オーストリア隊が初 群があり、其の一つブランカ山ペルーアンデスには二一の山 登頂している。 デスでも最大の規模である。193 を越える山が四〇座もありアン 群にはワスカランを始め6000m

ョである。

流石に息苦しく感ずる。 らせてくれるだろうか。伝説と り囲んだ。彼女は最も幼い子を 裏はすぐ急な山である。 皆車から降りて付近を歩いてい 向けて車上の人となった。コノ は八月一八日ワラス (HUARASU) に リマ(LIMA)の空港に降りた我々 て尽きる事なく流れていると言 川とマラニョン川の流れとなっ ブランカの山々になった。そし なった。彼女に従った子供達が 背負い、この子が現在の北峰と 逃亡した。彼女には子供達が従 嫉妬に狂った彼女は夫を去勢し が、ある日夫が愛人をつくった。 カランは子沢山の女房であった 道は斜面を横切っており人家の る。すぐ近くに小学校がある。 コーチャ(CONOCOCHA)の峠は4090 と女の執念の恐ろしさを感ずる。 は言うものの人のさがの悲しさ う。彼女は果たして此の私を登 て、彼等の流す涙が今もサンタ い、彼女の回りを大きい順に取 希望と不安に満ちた気持ちで インカの伝説によると、ワス

ゆっくり登っている。彼は強固 ふと山の方を見ると宮田氏が

な意志と鉄の肉体を持つ岳人で 所までゆっくり登る。静な緊張 ある。私も彼に習って少し高い

の一時である。

フィトンチッドの薫りが林の

面にただよい、気分が落ち着

ごとである。 八月一九日朝マイクロバスで

末端になりここがBC(4800m)とな その稜線を越えると花崗岩帶の テラルモレーンの登りになり、 中を通っている。道はやがてラ

されたユーカリの林が非常に多 ペルーやエクアドルには植林

る。ユーカリ独特の芳ぐわしい 色の若葉は弱々しいが新鮮であ った株から新芽がでて、その乳緑 をって建材にしている。切り取 い。地元の人々はユーカリの

いよいよ明日から登山開始であ モフバッグの取り扱いを教わる デーノ(HOTEL ANDINO)の庭でガ ワラス (HUARAZ) のホテル・アン

の鶏が明日の運命もしらず、コドイツ隊に飼われている五羽

ネグロ山群と対峙する桃源境で てくる小さな小川が流れてをり いてくる。BCには氷河から流れ

見えるのである。又東の方には るルートと氷壁、これらが丸ごと 花崗岩のアプローチとCT C2に到 た事だが、ベースキャンプの位置 よくみえる。これは後に分かっ ワスカラン(HASCARAN)の登路が 流である。又前の道路に出ると カラン (HUSCARAN) の眺めは、超一 特に二階のベランダからのワス まずまずで価格の安いのが良い 小ぎれいで気に入った。料理も のムショ (MUSHO) の宿はなかなか 楽隊で車が止められる標高3020m きれいに着飾った男女の行列と 日はインディオの祭りらしい。 に隊荷をすべて載せている。今 はトヨタのマイクロで屋根の上 最後の部落ムショにむかう。車 ワレカン (HUAL CABC) の勇姿もみ

BCに到る道はユーカリの林の

又一日がはじまる。休日の一日 地上の一員となった一夜が明け をあらわす。天と地の狭間で、 双頭が左に少しずつその影の形 右に、ワスカラン(HUASCARAN)の ってくる。ワンドイ(HUANDOY)が しずつネグロ山脈の頭部に当た は皆おもいおもいの事をしてす 八月二四日 午前六時太陽が少

設置され、テント村ができあが トをはじめ水道装置等たちまち 此処に食堂テント、炊事用テン となって浮き上がって見える。 の光が暗い闇の中に青白い星雲 く左の端にワラス (HUARAS) の町 右にユンガイ(YUNGAY)、そして遠 USH10) やマンコス (MANCOS) その が輝いており、真下にムショ、M2 天ノ川が走り、頭上にサソリ座 し夜ともなると、満天の星空で、 日中の暑さはたまらない。しか だ日蔭になる物が何もないので、 われであるがほほえましい。た ッコッと餌を漁っているのもあ

る。
の時の話を聞き出していってやりながら1970年に起こっってやりながら1970年に起こっってやりながら1970年に起こった地震の単してポーターの髭を剃ごす。山野辺氏は得意の山野辺

順応を完璧なものにすると言う くれる。我々はBCにおける高度 釜で炊いて、皆にお握りを作って は星子が持参した日本米を圧力 ンの香取氏は体調を整えるため 少し移動している。ベジタリヤ に白いマリヤ像が建てられ、町は が犠牲になった。今はその場所 の大地震が此処ワラス地方を襲 しながら此処に四泊した。 理由でベルグシュルンドを往復 に下山した。元気印の藤田さん を一呑みにした。二万人の人命 し、15㎞離れた麓のユンガイの町 い、ワスカランの雪崩を引き起こ 1970年5月、マグニチュード7.7

応が遅いようである。 苦しい一夜を明かした。私は順 苦しい一夜を明かした。私は順 では実に惨めものだった。殆 八月二五日 C1(5100m)での第

八月二六日、今日で離日以来 十一日めである。今日はC2往復 である。いよいよ氷の壁を登っ である。ここで私はタクティクス をまちがってしまった。この日 をまちがってしまった。この日 をまちがってしまった。この日 をまちがってしまった。での日 をまちがってしまった。での日 をまちがってしまった。での日 をまちがってしまった。での日 をまちがってしまった。での日 をまちがってしまった。での日 をまちがってしまった。での日 をまちがってしまった。での日 である。

それにしても今朝の朝食のな

的となったしまった。先頭は既 Omである。出発の時から空腹を 続ける。 よい。ゆっくり、ゆっくり歩き 見計らって氷壁の基部に着けば 備を終えて自分の番になる頃を に氷壁に届いている。彼らが準 く。結局この食事の悪さが致命 抱えて、最後尾からゆっくり歩 点でガルガタと言うところでもO 今日の予定は北峰と南峰の中間 人で孤軍奮闘 しているようだ。 イド頭のハビエル (JAVIER)が一 れた途端に餌が悪くなった。ガ つけて水でながしこむ。BCを離 クラッカー4枚にマーマレードを んと惨めな事であろうか。薄い

水壁の基部ではまだ順番が来ていない。空腹でたまらない。今日は行動をもらっていない。今日は行動をもらっていない。今日は行動をもらっていない。きた。持参してきたコンデンスきた。持参してきたコンデンスをかきまぜるとバンが一個でてきた。持参してきたコンデンスと蜂蜜をつけて素早く腹にてくる。水壁の先は急斜面のトラバースのようだ。しかし今トラバースのようだ。しかし今となる。高度的にはC2とほぼ同となる。高度的にはC2とほぼ同となる。高度的にはC2とほぼ同となる。高度的にはC2とほぼ同じと考え、これ以上の体力消耗によりによりが表している。

応は完璧である。私は両膝の無く水を飲み、排尿の回数も順調く水を飲み、排尿の回数も順調が、行手や顔のむくみもみられず、行手や顔のむくみもみられず、行手の値で、色も白く透き通っている。

理がきかないので、長い下りが理がきかないので、長い下りが とおもう。

従い、Clまで非常にうまく順応 は隊長の判断で決まり皆それに るはずだ。タクティクスの大要 と順応の程度に応じて行動出来 から、一人に一人の協力隊員を と考えたからである。しかしそ もあるが、ここでは回復しない って再度登って来るならば意味 は無くなっていた。ABCに一度下 った。私はCIに三泊する気持ち モックスでもを飲むべきであつ 呼びかけにも答えず、シュラフ つけている。従って各人の体力 ンボラソゥ (CHIMBORAZO)の経験 のためには、日数が不足する。 にひどくなる。この夜はダイヤ 度障害は呼吸数の少なくなる夜 を一錠飲んで眠りかかった。高 今夜こそは良く眠ろうと睡眠薬 にはいったまま日暮を迎えた。 何もしたくない状態で、夕食の 今度の登山の特徴は前回のチ この日夕方頃から体がだるく

高所では体調を自分で判断とならなければならない。他人のなりの行動が採れるようにく、又自分の功名心や劣等感にく、又自分の功名心や劣等感にで科学的思考に基づいた判断とで科学的思考に基づいた判断し

この度の失敗で、自分の意志である。

たいとは思わない。 度とこの恐ろしい一夜を過ごし わず大声を上げたい思いだ。二 ような虚脱感の恐ろしさは、思 抜けて体の血液がすいとられる りから目覚めた時、肩から力が 為が生への戦いである。深い眠 さと戦っているときは、その行 ずに荒い息をしながら、夜の暗 だけの事だったのだ。よく眠れ えの希望に満ちてくる。唯これ を続けていると、やがて体は生 いる。強制的に三〇分も深呼吸 行く体の死の恐怖におののいて ている。しかし意識はしぼんで 耐えた体は急速に酸素を要求し ら覚めた時、睡眠中の低酸素に 暗闇のテントの中で、熟睡か

ある。

であることに深く感謝すべきでガイド達の献身的な協力の賜物

ィクスが巧妙であったと同時に

はならない。 していたのだ。昨日はアンデス の天と地の間を生の喜びに満ち 魔物である。この事をはっきりと しである。この事をはっきりと しである。この事をはっきりと しである。この事をはっきりと はならない。 がはし、強い精神力と科学的思 さならない。

私は全員がワラス(BUARAS)に帰八月二七日、登山を放棄した

とタンポポの綿のような雲が浮 物でもしたようにポッンポッン こまでも透きとおった空に忘れ かる山。大きく迫りくる山。ど 見え隠れする峰々。次第に遠ざ 力山群。車の進行にしたがって 白い峰々を連綿と連ねるブラン な乾燥した空気、はるか彼方に をすべて吸い取ってしまうよう 景色を黙っている。地上の水分 るようなコノコーチャの高原の がら、モンゴルの草原を思わせ 気なミロンガのリズムをききな かう。テーブから流れてくる、陽 終えてマイクロバスでリマにむ 急に体がしぼんで行く思いがす すらリマ (LIMA) にむかって走る。 択枝の思いを乗せてバスはひた かんでいる。CIでの幾つかの選 九月一日、ベルーでの登山

て『登頂は思い出と忘却。』に変わせてバスに揺れている。やが満ち足りた顔に僅かな疲労を漂満を足りた。皆

る。これがロマンと言うものか

挑戦になるだろう。 (ARAN) は発酵し熟成し、やがて再 私の心の中で、ワスカラン (HUAS わるだろう。登頂出来なかった

とはケチュア語で湖の意であ り返ると母なるワスカランが静 ワッシュ山群が見えて来た。振 ばブランカともお別れだ。ワイ 近づいて行く。この峠を越えれ かに見送っている。(CONOCOCHA れが蛇行しやがて小川となりコ ノコーチャ (CONOCOCEA) の源流に リオ·サンタ (RIO SANTA) の流

るため単身エクアドルのキトに を受けた。 むかった。キトの空港でエルネ ンボラソ (CHIMBORAZO) 6310mに登 コトバクシ (COTOP AXI) 5897mとチ スト氏(ERNESTO)の暖かい出迎え マのホテルで皆と別れた私は、 ペルーでの山行が終わってリ

る。無風快晴である。

ose Ribas)には一〇人位のヨー ロッパ人がいる。頭痛もなく快 高480020の山小屋ヨセ・リバス(こ 空は快晴であるが風が強い。標 ポテイト、パナナー本、チーズ のP0110(鳥)と一握りのフライド 山岩の登りである。車の中で1/2 着いた。車を捨てて一時間の火 ヒュテ (4800を)に一四時一〇分に の簡単な朝食をすまし、車で移 レンジジュウスとミルクコーヒ 位) 1/3を水1以と共に流し込む。 動してコトバクシ(COTOPACXI)の (厚さき)を挟んだパン (子供の頭 九月四日、ホテルでバンとオ

> 見た違いと言えば高さだけであ 思うだろう。 は富士山を見ればコトバクシを ば富士山を思い、エクワドル人 全く相似形の山である。形から る。日本人はコトパクシを見れ コトバクシは日本の富士山と

早速またもや餅三個と海草サラ さんから貰った睡眠薬を一錠飲 上弦の月が山の端にかかってい トを頼りにヒュテを後にする。 をすませて、一時一五分にライ る。全く正常な目覚めである。 んで安らかな眠りについた。 るいし、人声も聞こえる。野口 ラフにもぐりこむ。外はまだ明 の夕食をすませて一八時にシュ ダ、コンソメスープ一杯の朝食 二四時にガイドから起こされ 餅四個とコンソメスープニ杯

は流石に苦しかった。 登る。しかし頂上直下の一時間 くもなくのスピードでゆっくり 汗もかかず、息も上がらず、寒 らの登攀である。体調は良好。 迂回したり飛び越えたりしなが でアイゼンを付け、クレバスを 登ると氷河の末端に着く。ここ 一時間ばかり火山岩の斜面を

飲みブルーンを食べて、写真を で風上を背にして座り込み水を ガイドのディエゴ (DIEGO)と二人 風が強く殆ど立っていられない。 枚撮影する。視界50よぐらいで 七時四〇分、頂上に到着する。

リマでの別れの時、 宮田さん

> らしい。」と山野辺さんが言って わるかったのだ。 たが、それはだめだった。季節が げたようだ。『山頂の眺めがすば よ。』の一言が私を頂上に押し上 の『COTOPAXIは登って下さ

建てられた小屋で、女性の番人 ワード・ウインパーにちなんで テはこの山の初登をした、エド のは15時であつた。 このヒュ ンバー (WHYMPER) ヒュテに着いた の高原をひた走りに走ってウイ に別れを告げて標高4000以近く 詰めて、アメリカン・ハイウエ テイトウ、白米の飯一杯を腹に /2 ポジョ(POLLO)、フライドポ ここで昼飯とする。例によって一 アンバト (AMBATO) に着く。アン の町サルセード (SALCEDO) を過ぎ、 ウエイを南下しアイスクリーム を八時に出発しアメリカンハイ RAZO) に登るべく、キトのホテル バト(AMBATO)は大きな町である。 九月七日、チンボラソ (CHIMBO

のこと等よく覚えていた。 年の私のことや北海道の伊藤氏 る。ヒュッテの小母ちゃんは去 るので、地球の中心から最も遠 っているが、赤道に近い所にあ 最高峰であることは、誰でも知 あった。今はサガルマーターが 世界の最高峰といわれた時期が 又かって一時期チンボラッソは がいつも一人で番をしている。 い、又は最も宇宙に近い山であ

とにきまる。早速持参した米を 三時起床、二四時出発というこ 今夜の予定は一八時就寝、二

> るような気がしない。気分良好 もガイド料に入っていたが行動 呼吸のときが無意識にあると、 である。しかし呼吸だけは意識 て自炊した。5000%の小屋にい 前日の夕食と当日の朝食はすべ もそうであったが、食事の費用 ピーマンとジャガイモの油いた 梅干し、味付け海苔で白飯を腹 して強くするよう心掛ける。無 圧力釜でたく。コンソメスープ、 めを作っている。コトバクシで 一杯食べる。ガイドのディエゴ (DIEGO) はニンニクを刻んで肉と

を済ませて出発する。 ラフにはいる。頭痛なし、快調 すぐに息苦しくなる。 速餅三個と海草サラダと、スー こされる。気分爽快である。早 んで寝る。二三時にガイドに起 である。この夜睡眠薬を二錠飲 プ、梅干し、味付け海苔の朝食 一七時半、食事を終えてシュ

が、日中は5500%のところまで厚 BORAZOの影がくっきりとあらわ じめると西側の大地に大きくCE 々と歩く。やがて空が白らみは ある。例によって今日もただ黙 トも要らないぐらいの明るさで である。雲一つない大空に明る く見えない。今夜は中秋の名月 い雲に覆われていて、山頂は全 い月が煌々と輝いている。ライ この季節、夜間は快晴である

〇分ペンチミジャ (VEINTIMILLA ったが何とか乗り切って七時二 最後の一時間は流石に苦しか

> 時である。 ている。それが次第に押し寄せ アマゾンの方角は密雲に覆わ 度である。上空は快晴であるが、 頂についた。一時間に175回の速 てくる。頂上の滞在限界時刻は

物であると同時に食事の違いだ CARAN) での高所順応の効果の賜 ったのは矢張りワスカラン (HUAS エクアドルでの山行が順調に行 きた道をキトへとひきかえす。 写真を撮影して山頂を後にする。 彼方にガラバゴス島がみえる。 日の頂上は二人のドイツ人と一 どまで往復一時間かかった。今 人の日本人と二人のエクアドル 人の総計五名である。太平洋の ウインバー (WHYMPER) 頂 (6310 十一時に小屋に着き、車でもと

な私に快く会話を教えて下さっ 過ごすことができた。わがまま スペイン語講習を受け、辞書を 旅立ちに先だって、約六時間の 家族に感謝します。そして今回 又エクワドルのERNESTO氏、そし のの人達に深く感謝します。 もベルーやエクワドルの山岳会 安村隊長お初めとして笹岡氏、 多くの人々にお世話になった。 おもう。この度の南米の旅では 充分に生かし、この夏のシシャバ 持参した。片言の言葉と辞書の て『大分山の会』の友人達と私の 六名の隊員の方々、そし何より ンマ(8013m)に挑戦してみたいと 南米での失敗と成功の教訓を 現地の人々とも楽しく

ざいました。 からお礼をします。有り難うご たスペイン語クラブの方々に心

地球の歩き方 90 『岩と雪』 65号 参考資料 岳人 No. 600, 601

石堂山から樋口山 (5月月例山行報告)

木本礼子

の外にテントを張り、一時三十 分床についた。 てくるような静かな場所で、車 のは午前一時だった。星が降っ 十四名となり井戸内峠に着いた 名が分乗して午後八時、サニ を出発した。途中二台合流し、 五月二四日の夜、車三台に十

寒くなく、足取りも軽いと思っ 山口まで一〇分かかる。あまり 出発した。車で狭い林道を、登 はみんなで持ち寄ったおかずや り坂が始まった。 たが、植林の中をすぐに急な上 おにぎりを食べ、六時四十分に つかり明るくいい天気だ。朝食 午前五時に起床。あたりはす

を登るところもあったが、あま ゆっくり登った。頂上近くに岩 ずみ、写真を撮ったりしながら りきつくなかった。 途中、景色を見ながら話がは

> 々(市房山、鳥帽子岳など)が めは、見渡す限り青々とした山 一望でき、遠くに太平洋が見え 八時四十分に頂上に到着。眺



(石堂山にて

根伝いに行くことが出来る、 口山に行くことに決定。 一初予定していなかったが、尾 一休みした後、地図をみて、

時間半かけて苦労して登った頂 ていて焼き、また感心した。二 り開いて進んだ。自分の通った た。道も途中から消えて竹を切 近づくにつれ竹が多く茂ってき たが、三つの尾根を越え頂上に 上は風が心地よくてとても気持 道を振り返ると立派な道ができ したことはないと軽く考えてい 地図では自然林のマークで大

> 十分で、 いた。 った。下山したのは午後三時五 竹が当たって体中傷だらけにな 作った道に迷ったりした。また 下りはもっと大変で、せっかく ちよかった。登りが大変なら、 足ががくがくになって

ろいろな所に出掛けて山の知識 まだまだ経験が乏しいので、い こぎ』は初体験だった。登山は を身につけたい。 今回の山行は私にとって『藪

水、田尻、西、林、牧野、渡 甲斐、岸本、木本(淳)、木本 (礼)、小竹、児玉、佐藤、清 参加者 (安藤(夫妻)、飯田

島 山

(八月月例山行報告)

飯 田 勝 之

ごし、翌日早くえびの高原をス たり、大浪池を巡ったりして過 白鳥山や甑岳の小さな峰を歩い る。その時は前日のんびり一日 八年前に単独で歩いたことがあ 御池へと下ったのを思い出す。 タートし、途中獅子戸岳から大 かけて、えびの高原の池巡りと ノ峰まで縦走し、二つ石を経て **幡池を往復の後、さらに高千穂** ある。私はこのコースをおよそ 八月の月例山行は霧島縦走で

> るとそのままえびの高原へと登 も少なくなく、ただひたすら走 深夜のドライブウエーは走る車 を通り、そのまま高速宮崎道へ。 ている。それでも距離はかなり けてきたので道は比較的に空い って行く。 長い。宮崎は一つ葉のバイバス 路南下。延岡を過ぎると夜も更 発った。夜の国道一〇号線を一 六人が車三台に分乗して大分を 八月二九日 (金) 夜八時に、

キャンプサイトを探し、スペー 者との待ち合わせのため高原の スを探してそれぞれテント、ツ た。宮崎市から来るという同行 エルトを張る。 午前一時にえびの高原に着い

が白い煙を上げている。そして、桜島 どの低木の中をジグザグ登ると は午前六時一〇分であった。早 まで行く。登山口を出発したの と合流し、車で韓国岳の登山口 が見え始める。右手遙か彼方に その後ろに白髪岳の大きな山体 ヤクシ池や御池が段々低くなり 白い口を開いてくる。後ろにビ め、右には大浪池がポックリと 界も開けてきた。左下に韓国の 次第に高度を上げていくと、視 朝の登山道は登る人影もない。 を済ませ、 睡眠時間であった。簡単な朝食 火口が次第に大きな口を見せ始 ノリウツギやコバノクロツルな 午前四時過ぎ起床。わずかな 宮崎から来た同行者

> える。 うには市房山、江代山から遠く 岳などの峰々、そしてその向こ 包山、烏帽子岳、掃部山、大森 髪岳からその右手に石堂山、天 ていてくれたかのようである。 夏の空気は冴え、山頂からの景 いた。(山頂着七時二〇分) きて、ほどなく韓国岳山頂に着 さらに東には尾鈴の山並みも見 国見岳、扇山などの脊梁の峰々、 色はまるで我々のために用意し 高度が上るほどに視界が開けて 開聞岳も見えているではないか。 よく見るとその煙のすぐ右には かすかに靄って小さな三角錐 北の方にはどっしりとした白 快晴の空の下、澄みわたる晩

目を西側に転じれば、紫尾山



韓国岳山頂にて

新燃岳と手前に迫ってくる霧島 でそびえる高千穂ノ峰から中岳 何よりも圧巻なのは、秀麗な姿 取るように見えている。そして から金峰山にかけての薩摩半島 左には高隈山系の峰々が手に 山々が連なり、そして錦江

黒々とした稜線と、そこに浮か の逆光の中に延びる夷守岳への 目に飛び込んできたのは、朝日 の姿である。 んだ白い円い鏡のような大幡池 走開始である(七時四〇分発)。 に見える高千穂の峰に向けて縦 あと次のコースへと移る。遙か 連山の一大景観である。 韓国岳から下り始めるとすぐ しばらく頂上の景色を楽んだ

りつめると、ミヤマキリシマが り荒れた緩やかな道の斜面を登 とほどなく、水が少なくて、湖 ある。(八時五〇分着) 低木の中に点在する獅子戸岳で いた跡が雨にえぐられてすっか 々の間に見ることができた。歩 面が退いてしまったビワ池を木 きの荒れた道が樹林の中に入る 急斜面のガレ場を下り、 草つ

> に立ち、再び全員で記念撮影の 登りの後、中岳の火口壁の頂上

後、高千穂河原への急な下りに

かかる。

か二〇〇mほどの距離である。 つと振りかえったが、そのまま の茂みの中へと消えていった。 の方も我々に気づいて、ちょ 斜面の草原の中にひょっこり を下っていると、右手向こう 湯之野方面と大幡池方面へと 獅子戸岳を過ぎ、斜面のガレ 山頂とは名ばかりの小ピーク 匹姿を現わした。わず

> れる。 の光線の具合だのと意見が分かれない。深さの違いだの、太陽 える。数日前の雨のせいかもし 少なく、少し岸の方に濁りも見 た。目 グリーンの火口湖。今日は水が と、その底に見えるエメラルド 木の中の急斜面を一五分ほどの りで新燃岳の火口壁の上に出 燃の登りにさしかかる。低 分岐する四辻で小休止の の前に広がる巨大な火口 後

れてしまったに違いない。 頂に達したが(一〇時〇五分 着)、広い砂礫の広場のどこに も三角点は見あたらない。壊さ 部の緩やかな下りと緩やかな 広い草原のような、中岳との 火口壁を半周して地図上の

穂河原の広場に出た(一一時三 檜の造林地を下りきるとと高千 うに造られた石畳の道を下り、 〇分着)。 マキリシマの群落の中を縫うよ 者が登り下りしているのが、白 い点の列となって見える。ミヤ せたお越を挟んだ向こうの高 穂ノ峰の斜面には多くの登山

は次々と下ってくる人たちの列 るという二人のメンバー(清水、 林)を残して最後の登りにスタ 近高千穂の峰に登ったことのあ ト。赤茶けたガレ場の急斜面 広場で昼食をすませた後、

夜空に打ちあがる菊の大輪を眺

点がある。

ここまで赤

いテーブ 四等三角

小表山(711m)山頂着。

右にコースをとり八時一五分

わりの花火大会が開かれており、

釜の縁でゆっくり休憩する。 くなり、あえぎあえぎ登ってお にしんどい。足取りも次第に遅 た後の、この急な長い登りは実 である。この時間、もう登って いくのは我々だけのようである。 からの長いルートをこなし

させているのだ。 っている。直登のザレ場に霧島 来る度にコースが少しづつ変わ 当に最後の急登である。ここは の登山客集中が、 馬の背を過ぎるといよいよ本 斜面を崩壊

っている。 う山頂はもう人影もまばらにな そこはようやく天の逆鉾の立つ 着)さぞや賑わっていたであろ 山頂である。(一四時二五分 最後の急斜面を上り詰めると

えびの観光ホテルで温泉に入っ 全員でえびの高原に引き返し、 車を二人で高千穂河原へ回し、 原に止めてある車を取りに行く く下山し、タクシーでえびの高 ことにして、走って下山した。 韓国岳の登り口に置いてある 私とNHKの豊田君は一足早

々津の港や門川の港では夏の終 ものすごい夕立にあったり、美 分乗し一 したが、夜の一〇号線は途中で つかっていやした後、再び車に 帰りも往路を引き返すことに 縦走の 疲れをゆっくり温泉に 路大分へと帰路につい

に富むドライブであった。

豊田、 (佐藤、 清 水、

山 柏

(九月月例山行報告

報告 \pm 雅 良

m m ` 月二八日 鷹巣山 0 m)柏山(680 小表山 (711

業高校裏門着。 実家を出発。六時四〇分三重 準備を済ませ六時二四分大野 い、若干暗かったが天気は良 午前五時三〇分起床、 やや寒 11 農

との分岐になる稜線にでる。 と、後で登る鷹巣山へのコース それぞれ自己紹介をし七時三八 場(林道開通記念広場)に着。 七時一九分小表山入り口の駐車 合流し、私を含めて一行一四名 に沢添に杉山の中を登り詰める 分登山開始。赤いテーブを目印 ここまで42㎞。準備を整え、 で宇目町へと326号線を向か 勢一五名のメンバーとなる。 大規模林道宇目小国線へ入り 六時五〇分大分からの一行 宇目町で茅野氏と合流。総 着

り迷うことはない。 があり踏み跡もしっかりしてお

そびえ立つ。 山が見える。手前に新百姓山が原山、木山内岳、夏木山から傾 らいで着く。手に取るように桑 登ると見晴らしが良い。五分ぐ のコースがあり、このピークに 八時二五分出発。コースを 戻ると左側に一つのビークへ

岩を登っていく。 向かう。鷹巣山は岩山で直角に 稜線に戻る。すぐさま鷹巣山へ し、九時〇〇分には鷹巣山への 八時四五分このピークを出



鷹巣山にて

山、傾山、 ら見るよりもさらに遠くは大崩 が一番見晴らしが良く、 時二〇分山頂着。この山頂 障子尾根、 越敷岳、 小表か

昔の字で書かかれた二等三角点 山頂に着く。一一時五七分着。 これを這い上がって直登し一五 分ぐらいで「柏山 (680.8m)」 分ぐらいで岩の壁にぶち当たる。 結構アップダウンがある。四〇 があるし五個のピークがあって 山登山口着。登山口の札がある。 る。一〇時二〇分駐車場着。車覚」を採取しながら登山口へ戻 反対側には佩楯山がよく見える。 に乗り込み一分も走らないで柏 一〇時四〇分発。途中風倒木 時三二分発、途中「山の味 眼下には次に登る柏 真近には

実家に帰宅。76kmであった。 稲積へ。名水を汲み玉田を経て 林道をさらに進み梅津越経由で と別れて佐藤先生、小竹さんで に戻る。本日の山行は終了。皆 三五分発。一三時三〇分駐車場 山が見える。昼食をとり一二時 規模林道と先ほど登った二つの 見晴らしがよい場所があり、 結構楽な登山であった。、 しは悪い。山頂より少し戻ると まだ新品同様である。見晴ら

があった。

木本(淳)、小竹、児玉、 清水、 (安部、 飯田、 西、野村 小幡

屋 次 紀

平成九年七月 木本 淳

があってキャンセル。今度は三があったものの、いずれも支障 性二人に打診したところ「嬉し 決まった。この時は男三名で計 今年一月中旬にアウトラインが 成八年七月であったが、メンバ 定する。 賛同を得てメンバーは五名と確 画を進めていたが、二月中旬女 度 い。是非お願いします!」との 編成のこともあり具体的には 目の正直である。立案は、平 た。これまで何度かチャンス 屋久島登山は永年の夢であ

積んで、一路鹿児島へ向かう。 え一人当たりのすませていたの ックは二日前にパッキングを終 日午前〇時を迎える。五名のザ 作るなど万全の体制で七月一六 万山登山、激しい雨の中でテン ボンラーメン、ネギラーメンが 食事をとる。(当店の名物、ザ 業しているというラーメン屋で 鹿児島市着。午前五時までは営 で、直ちに一台の車(バン)に トを張り、テントの中で食事を 担を決める。六月二二日雨の福 合わせで装備、山行中の役割分 定。四月一六日第二回目の打ち わせを行い、ルートと日程を決 三月一二日第一回目の打ち合 七月一九日午前四時一五分、

時三〇分高速フェリー「トビ

納得。 ての山口 わっていく。何度か車から降り 帯性雲性林帯のそれと植物は変 も、またたく間に姿を消し、温 見る低地亜熱帯気候に見られる をいただいたお礼もそこそこに ントサイトetcのアドバイス 大きなシダ類(実はウラジロ) るコースタイムのやりとり、テ 口市と初対面。ファックスによ 迎えてくれた安房タクシーの山 路淀川登山口へ。車の窓から 宮ノ浦港着一〇時二〇分、 氏の熱心な説明に一同

出発、 のコースで気付いたことは?等。 何処で泊まりますか?ここまで 地図を持っていますか?今日は 何処から?何人ですか?どんな インのインタビューを受ける。 ターという、うら若きメッチェ 到着、ここで環境庁のアルバイ いくつかの質問への受け答え。 (笑顔が可愛かったなぁー) 十二時三十五分淀川登山口 十三時五十五分淀川小屋

成されており、 日本庭園なり。土はビートで構 然そのものの湿原地帯、 分遅れる。花ノ江河は、 十六時三十五分。予定より十五 歩きにくい、そして小さなアッ ブダウンを繰り返しながら高度 ように走り予想していたよりも やがて花ノ江河到着、 登山道は、木の根が網の目 乾燥すれば燃え ときに 見事な 正に自

> 絶好の(まるでテニスコートの ど人にしられていないという。 たらない) テントサイトは、 ような、樹林に囲まれて風の当 るという。直ちにテントとツ ルトを張る。この十坪程度ある

> > 日テントを張っているのを見

てみ見ましたが、はて昨日はキ

戻りしてテントサイトを見回 トを張った気配がなかった。後 通ったらチリひとつなく、テン け、話もしたのに今朝、そばを

シャクナゲの大群落がすばらし やつを食べる。投石平は雄大で 投石平着七時十分、十五分間の 目指す山は、主峰宮之浦岳と第 る) 黒味別れ着六時二十五分。 時〇〇分(予定より三十分遅れ 就寝八時。 い!」と目を輝かす。 い、皆「花の六月にまた来た 休みをとり全員雨具をつけ、お 二の高峰永田岳、休まず前進。 七月十九日四時起床、 、出発六

わけ。

分、

石

完璧に、元の状態にしておいた

ベグを抜いた穴まにいたるまで

の今までの自分が信じられなか ツネにつままれていたのか?今

った」とのこと。実は、側

の男性が追いついてきた。「昨 一時間程歩いたら、四十歳位

0 岳、更に右手に黒味岳と180 に栗田岳、翁岳、安房岳、投 雨ながら正面には永田岳、背後 宮之浦岳着午前十時五

ると一〇m程前の草むらに* 鹿 五分、第二展望台十五時四十五 れた状態、ピョンとはね又、草 ヤッターを押しても全く無 前が開け急に明るくなった。 分、急斜面をひと登りすると眼 んでいる。平石通過十三時五十 大きなタンカーらしきもの浮か 北東の彼方に青空と海が見え、 塚小屋へと向かう。気が付くと 再び焼野三又路に到着、出発十 着十二時十分、出発十二時十五 十分永田岳へと向かう、永田岳 時二十分、燒野三又路着十時四 るではないか。宮之浦岳出発十 三時十分、第二の幕営地、新高 分、いつしか雨も止んでいる。 立ったまま昼食をとり、 十五分(雨が強くなる)ここで m級の山々がくっきりと見え m、四m、二m近付いてシ 逃げないのであ 十一時 見



定より四十分早く着く。 新高塚小屋着十六時五十分、 に猿が乗って遊んでいるという。 ないのである。よく、鹿の背中 久島の鹿は、人間への警戒心が 匹、左下斜面にもまた二匹、屋 る。歩を進めていくと右手に 子,

いパーティーのことが気にかか ら・・・・・・」とテントを持たな いた。「もしテントがなかった 先着組のテントが五つ張られて しているようだ。小屋の近くは、 小屋はすでに定員をオーバー

九十人泊まったとか。さぞかし 山小屋は四十人のスペースに、 き、鳴き声と、足音に目を覚ま よくねむれなかったことであろ ットボトルが全部倒れていた。 す。テントの側に置いていたべ 七月二十日四時起床、昨夜の 夜中に鹿がテントの回りを歩

で大いに議論をするが結論が出 めて見る花や草木の名前のこと により多数決で命名する。 ず、とりあえず民主主義の原則 高塚小屋着八時十五分、途中初 縄文杉着八時二十七分、二十 新高塚小屋出発六時十六分、

る) ウイルソン株では二日前の き水をおもいっきり口に含む。 200年ともいわれる杉下の湧 五分の中休止をとり一説には7 時四十五分(ここで雨とな 夫婦杉通過九時四十分、大王 段とまろやかである。 時五十分、ウイルソン株十

> きた。 のトロッコ道、少なからず足に 時〇〇分出発、これよりは八㎞ 作り昼食。(雨が止む)、十三 コンロを出してタマゴスープを の中を大株歩道入口へと急いだ。 も大変だなあと思いながらも雨 がさえない、こんなアルバイト 疲れからインタビューアの顔色 象情報がほしい」と付加える。 日前に言い忘れた「屋久島の気 インタビューアと再会する。二 大株歩道入口着十二時二十分、

十分早い十六時〇〇分に到着。 川ダム駐車場には、予定より三 時二十五分に通過、小杉谷発 とりながら楠川歩道入口を十四 途中二十五に五分ほどの休憩を おいたアリナミンを全員が飲む。 朝四錠、昼食後に二錠ときめて (小学校跡) 十五時〇〇分、荒 下山を待っていた安房タクシ 三代杉の水場でおやつと、 毎

杯。 くり湯につかり再度ビールで乾 た気持ちの全くない余裕のある れたもう屋久島はいい」といっ 行がここに終わった。全員「疲 もかかわらず完璧と言い得る山 により平均年齢六十一,八歳に 主トレーニングとチームプレー 員で周到な準備と五ヶ月間の自 メンバーの決定より五ヶ月、全 み干す。当初の計画より一年、 れで、一同乾杯。全員一気に飲 かった冷たい缶ビールの差し入 一行でもあった。民宿にてゆっ の山口さんから思いもかけな ある人は、

> に夢をはせて・・・・ に、又ある人は、 積雪期 の登

渡辺方子、 (会友)、 岡部俱子) 松村豊寛 同行者 (小幡辰雄 (会友)、

夏休み利用の 辿得

児 玉 章 良

この山岳会東九州支部の月例登 ターハイで山に登ることを主に、 の山に登っています。特にイン 登りました。 ぐに月例登山で熊本の「大金峰 ができませんでしたが、七月二 山に参加しています。 六、二七日と夏休みに入ってす イに行ったためメインの山登り (1396m) :雁俣山(1315m)」に 今年はホッケーでインターハ 年夏休みを利用して幾つか

した。 く山にも行けない状態でありま があり、ホッケー 国体九州ブロック大会(福岡) した。その後京都インターハイ、 位山(451.7m)」に車で登りま 五名(西、安部、小竹、佐藤 (正))でした。二九に「九六 台風のためあいにく参加者は の指導が忙し

らないでしょう。

すが、取りつきを見落とすと判 頂着。わりかし踏み跡がありまって行きます。七分ぐらいで山 目印の赤いテープをたよりに登 が、このあたりで左に取りつき 道はこの辺から下りになります 分ぐらい歩くと、左に急カーブ で車を止め、左に続く林道を3

時間を見つけて「立花山(367 往復二時間はかかりました。二 m)」に登りました。低い山だが ただし九州プロック大会では

> くれた名山たち」というタイト 参考に登っています。 れを収集して暇なときはこれを 書いた記事が載っています。こ ルで「アウトランド」山岳部が 夕刊(月一回?)に「大分のか 等三角点がありました。 大分合同新聞 の水曜日の

りました。また急登になります 頂着。三等三角点と石の祠があ 右側にお地蔵さんがあるところ い鳥居をさらに500m進み、 が、新聞の紹介のようにこの赤 い鳥居があり、これを登ると山 りこれを右折、2㎞ぐらいで赤 てすぐ「農免道路」の標識があ ました。竹田から長湯線に入っ ける「法師山(379m)」に登り 山で大野の実家から三〇分で行 八月二四日、この中にあった

手下に林道が見えます。ここに これを永遠に登って行きコロニ 原」に登っていく道があります ンドがある手前で、右側に「木 右手にニッセキのガソリンスタ から久住線に入り、城原を過ぎ 山「木原山(669.4m)」に。竹田 牧場を過ぎ、登り始めると左 八月二七日、もう一つ竹田の

等か判らない三角点がありまし 山頂着。土塁下に壊れかけた何 側を直進すると一〇分ぐらいで 造林之碑」があります。この左 登り詰めたところに「上原県行 す。この林道を五分ぐらい歩き た。大分からは新聞の案内の めて林道を降りていきま

通

舎があります。 少し下り、この林道の終点に牧 めると目の前に高塚が見えます。 す。この林道を最後まで登り詰 があり、この横を登って行きま に進むと名水の「海原六神社」 塚は芹川ダムをさらに長湯方面 m)」と「高塚(767,7m)」へ、高 り進めば判りやすいです。 八月三一日、「大龍山(264.3

頂です。 す。これをなんとか越えると山 登ると同じく柵にぶちあたりま わします。これを一〇分ぐらい 斜面が伐採されたところに出く これをなんとか越えると高塚の すぐ有刺鉄線の柵があります。 ながら高塚をめざして行くと、 ここに駐車し牧場を左に登り

ありません。 り「熊群山」が見える程度です。 ありませんでした。わずかばか 「大龍山」も山頂の展望はよく 山頂は萱に覆われ全く展望は

道をひたすら登って行くと三〇 場あり。 車で登れます。 す。神社入り口まで狭いです 「大分百山」を参照して登りま 九月一一日「熊群山」へ。 切り開かれた幅広い山 入り口には駐車口まで狭いですが

住む家が見えてきます。 あり、この下の道を少し下って 右手に進みます。すぐ寺の跡が が止めてある)があり、これを 分ぐらいで分かれ道(お寺の? いきます。水場があり、 神主の

ます。これを一気に登りますが な鎖のある岩の壁にぶちあたり 神社があり、この神社の右側を す。雨の日は止めた方がよいで 苔むしいて結構滑り易く危険で 風倒木を避けながら登ると大き すぐ側の石段を登り詰めると

いますが見落としやすいでしょ く、目印の赤いテーブがついて でしょう、 みますが、人があまりこないの やがて低木のブッシュの中を進 高塚が手に取るように見えます。 きますがここからの展望は良く、 やがて石の祠がある場所につ 非常に道が判りづら

り口の名水、神社手前の名水、 等三角点でした。魅力は神社入 果不足を感じさせられます。四 も判りづらく苦労した割には成 ですが、全く展望もなく、山頂 一段式石段ぐらいです。 神社から四〇分ぐらいで山頂



支部臨時 総会を開

開全催国

があり、全会一致で承認され 思表示したことについて報告 国集会を開催したいとして意 念行事の一環として大分で全 〇周年を迎えるにあたり、記 西暦二〇〇〇年に支部創設四 開かれた支部長会議の席で、 本部の年次晩餐会に先立って ホテルで開催された。 委任状五二名)出席のもと 間近に控えた一二月一三日 (土)、支部員二四名 (別に 総会では、まず支部長より 支部の臨時総会が年の瀬を 筋湯温泉の八丁原ビュー

り組みについて役員会で検討 決定し、これらの具体的な取 実施。②記念誌の発行。③ されることとなった。 記念講演会の開催などを西暦 の開催のほかに①記念山行の 念関連事業として、全国集会 行。④記念展示会の実施。⑤ 一〇〇〇年に実施することを 『大分百山』の改訂版の発 総会終了後は、出席者全 続いて支部創設四〇周年記

> と下った。 ったルートを歩き、長者原へ 泉水山へと、三日前の雪の残 越から黒岩山、上泉水山、下 には一三名が参加し、牧の戸 日行なわれた一二月の月例山 また、これに先だって同

約一〇キロの道を歩いて、 深峠を越えて湯平温泉まで、 にしえの峠道をしのんだ。 一名参加し、千町無田から雪 さらに、翌日は希望者の十



ら登山開始。 時一五分、竹田市神原登山口 晩秋の静かな過ぎ林の中を、 天に恵まれ自宅を出発。午前

へ向かう。 渓谷の水音を楽しみながら山 のように残された燃える紅葉 になった原生林の中に、忘れ すっかり落葉し、幹と梢ばか

の登山者が三六〇度の展望を 九歳の男性をはじめ三〇人程 快晴の山頂では熊本市からの 時三五分ごろ山頂到着。 会い一息ついたのち、午前一 峠で宮崎県ルートの登山者と うやく国観峠に到着。 あえぎ、山頂までの残りの路 に目を奪われ、つづらの急登 しんでいた。 を示した案内板に励まされ、

七九歳の男性は、 前日に傾山

で盛大に懇親会が開催され

で同ホテル売り物の猪の頭の 『地獄蒸し』との料理を囲ん

大分市 蓮谷義

一月二三日土曜日午前五時

高度を稼ぎ、五合目小屋で小 手に渓流を見ながらゆっくり

ブナ、ヒメシャラの大木や巨

らしい九州脊梁山地が遠望で は言うに及ばず、由布・鶴見、 重連山、阿蘇、傾山、大崩山 山頂からは、祖母・傾の縦走 遠くは熊本、

がら、 屋を見学したのち往路を下山。 ユーモアに満ちた人であった。 というと、「九」と付け加える 〇」と答え、「お元気ですね」 この日に祖母山登山の後マイカ 言えないような立派な九合目小 下山開始、完成目前の小屋とは に登山して車内で一 「お年は」とたずねると「七 午後二時五〇分登山口着。 昼食の後、午前一一時四五分 帰路、長湯温泉で汗を流しな で帰宅するという元気者で、 次の登山計画に花を咲か



に憩う 飯田勝之

裏の林を歩いた。 などの新芽が出そろった5月の 始め、私は久しぶりに由布岳の ブナ、 カエデ、シデ、コナラ

である。 のがここを訪れる楽しみの一つ の中を心のおもむくままに登る るか上まで続いている。その林 しくなり、原生林の急斜面がは 天然林にはいると踏み跡すら怪 為の道が幾つかできているが 麓の造林地の中には山仕事

くしてしまうであろう大樹の足 やがては上空を青葉で覆い尽

と咲いている。 もれ日をあびてフタリシズカや ジガサ、オタカラコウなどが、 ヒメアヤメがけなげにひっそり ており、そのかたわらでは、木 大きく葉を広げて初夏を味わっ もうヤブレガサやモミ

の足跡はイバラの茂みの下を潜 ければならない。良くみると鹿 塞ぎ、下は大きく谷底を回らな り、そこを横断することすら許 手をふさいでいる。そんな巨木 いる真新しい二本爪の足跡は、 昨夜は雨であったので、残って も残っている獣の踏み後をたど 地を過ぎ、原生林の斜面に幾筋 すまいとする。上を回れば崖が トリイバラなどが我が物顔で茂 日ざしを受けてキイチゴやサル 青空がのぞいており、降り注ぐ の倒れた所にはぼっかりと広い ナの巨木が倒れて、大きく行く たすみかに帰った跡であろうか。 麓で食事を済ませた鹿が今しが って斜めにトラバースしていく。 鎮西八郎為朝の伝説の残る湿 しばらく進むと、目の前にブ

キリシマの点在する広い茅野に 長い。手袋をはめた手で恐る恐 でた。岩の上に登ると眼下には で進むこともできるが、相当に くとやがては大きな岩とミヤマ ヤシャブシの密集地をこいでい み分けしながら少しづつ進む。 る、丁寧に茂みをかき分け、踏 樹林が終わり、ノリウツギと 短い茂みなら鹿の跡に腹ばい

> たが、今は真下を通る高速道の 静かな景色を楽しむこともでき ている。以前はここまで登ると 塚原から由布院の景色が広がっ なく聞こえて興が薄れてしまう。 エンジンとタイヤの音が絶え間 茅野の中に幾筋も走っている

ると考え、気にせずに進む。 のだし、払い落してもまた直ぐ ところへ踏み込んだ自分が悪い ては困るよと思いつつ、こんな くっついている。相手を間違え ボンに小さなダニが十匹以上も ら、ふと気がついて見ると、ズ 踏み後の一つを拾って進みなが に同じようにつくに決まってい 茅野を抜け樹林に入るともう

は一度とてない。 私は同行者と来た一回だけを除 とは思われないほど、人影一つ 中登山者で賑わう由布岳の一角 いる。この台地こそが私が密か 初夏の日ざしが林床を照らして だ木々の新芽も小さく、明るい の原生林の中となるが、今はま 夏はうっそうとした薄暗いほど そこは池代の台地の一角である。 古斧を知らぬ大自然の樹林で、 なく、静かな、そしてまさに千 に愛するゲレンデである。一年 いて、ここで人影に接したこと

つくと、そこは見事な展望の小 根や枝や岩にしがみついて登り 岩の積み重なった斜面を、木の つか点在する小ピークのうちの 二を払い落して、台地の上に幾 一つを目指して進む。累々と巨 樹林の中に入るとズボンのダ

> いる。 に見えるので飯盛山と呼ばれて 街から見ると御飯を盛ったよう ピークの頂上である。由布院の

の頂は連休の人出で賑わってい ら人の声が聞こえてくる。西峰 そこに立つとはるか上の方か

声も聞こえてこない。 速道路の音も、山頂の賑わいの われたこの小さな別天地は、高 うな湿地である。高い樹木に覆 った高い台地に信じられないよ 池代である。火山岩の積み重な えた小さな湿地にでる。ここが 水たまりの点在する、菖蒲の生 行くと二本のスギの巨木の下に 一つのピークを回り込むように 飯盛山のピークを下り、 もう

ことにした。 て帰って、今夜の風呂に入れる たという。今日はちょうど五月 ここまできて菖蒲を刈って帰っ ルの声が聞こえた。昔、里人は 五日、端午の節句だ。少し刈っ 弁当を開いた。一つ二つ山ガエ 岸辺の岩の上に腰を下ろし、

ミヤマキリシマの群生地を登り すことにした。(九、五、 々に登ってきたルートを引き返 すます混み合いそうである。早 から後から登ってきており、 は都会の雑踏をそのまま持ち込 西峰の頂上に立つ。しかしそこ 原生林の中を白野へと分け登り んだように賑やかさである。後 つめ、ウバガウジの火口壁から 池代の静寂を一人楽しんだ後 H

場所…金山、井原山

集合…午前四時〇〇分 福岡県境)

雨天決行

天候により高速道路が通 布院町)に変更します。 れない場合は立石山(湯

ご参加の方は、二月十日 までにご連絡下さい 邑 0975-32-0926

月の月例山行

月日…二月十五日 (日) 背振山系(佐賀県

サニー出発

お知らせ

部の集いに替えます。三月の月例山行は九州四支

月日…三月一四日 (土) ~ 九州四支部の集い 五日 (日)

 ∇ ∇ 場所…宮崎市青島 ▼双石山登山のみ参加希望者は 東九州支部は野口秋人前支部 第一日目 合のこと。 当日午前七時五〇分までに集 長追悼登山にします。 第二日目 記念登山・双石山 午前八時〇〇分青島発 記念パーティほか 一六時から記念講 「国民宿舎青島」

▼参加希望者は二月二五日まで に事務局へ。

ようやく発行にこぎつけた第 定後、つい延び延びになり、 今後は本誌を、会員相互の 定期総会で機関誌発行を決

用・充実を イあふれる内容にも 詩や短歌や俳句その他バラテ 山行記録に限らず、随筆や

各種の情報交換の場として活

正八先生(会員)にお願いし

題字は大分工業高校の佐藤

K I

日本山岳会東九州支部報

発行者 編集者 徳之 梅 木 田 飯 勝 **〒**870-0021 発行所

大分市府内町 1 - 3 -サニースポーツ 西 TEL.FAX 0975-32-0926 1 6 孝子方